

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 8 年度第 7 回 相模原市立小中学校等の適正規模・適正配置あり方検討委員会		
事務局 (担当課)		学務課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 2 (直通)		
開催日時		令和 8 年 7 月 3 1 日 (金) 1 8 時 0 0 分～1 9 時 3 5 分		
開催場所		相模原市役所 第 2 別館 3 階 第 3 委員会室		
出席者	委 員	1 1 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	1 1 人 (教育環境部長、教育総務課長、学務課長、 学校施設課長、学校教育課長、教職員課長 外 5 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由				
議 題		1 開会 2 議題 (1) 前回会議録の承認について (2) 前回審議会の振り返りについて (3) 答申 (案) について (4) その他 3 閉会		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

川崎会長より開会のあいさつを行ったあと、定足数を確認の上、次第に従い会長が議事を進行した。

2 議題

(1) 前回会議録の承認について

前回会議録について事務局から説明を行った。

意見等はなく、前回会議録について委員の承認を得た。

(2) 前回審議会の振り返りについて

事務局から資料に沿って説明を行った。

本件については、議題（３）答申（案）について、でも取り上げる内容となるため、議題（３）の事務局からの説明後に、併せて質疑応答及び意見交換を行うこととした。

(3) 答申（案）について

事務局から資料に沿って説明を行い、質疑応答及び意見交換が行われた。

【答申の構成について】

（日下部委員）平成２９年に（基本方針が）策定されて、時間が経過したので更新するという事で作り変えているため、配置の方は今回初めてのものだが、規模の方は前回の答申と比較して、今回良くなったというか加わったこと、前回の答申ではあったが今回除いたことなど、時代の経過に合っているかという見方はしなくて良いのか。

（事務局）前回と変わった点は、少子化が進んでいることと、時間が経って学校施設の老朽化がさらに進んでいることがあると思う。それに対して、今までの基本方針では学校施設にまったく触れてこなかったが、施設も一緒に考えていくということで、規模と施設をある程度リンクさせて考えていくという所が、今回の大きな変更点であると考えている。

（日下部委員）配置の条件が入っていれば、基本的には時代経過に合わせて答申の中

身がアップデートされていると言っているのか。

(事務局) 規模の「望ましい」という言葉は変えておらず、変えなかった理由も含めて皆さんにご議論いただいたが、子どもたちの教育にとって望ましい規模を設定していくこと、そして、その中で学校施設も一緒に考えていければということを考えている。

【各論点のまとめ方について】

(高橋委員) 18ページの図11の下にある、【課題解決の進め方に対する考え方】の一つ目の点で「現行の進め方では声の大きい人の意見が通りやすい懸念がある。」は、確かにその通りであるが、「声の大きい人」という表現が、市民が見ても疑問を抱かないような表現にしていただけると良いと思う。「発言力の強い人」などの言い方もある。

(川崎会長) 答申のためそのままで良いとも思うが、もう少しマイルドに表現した方が良いかもしれない。

(井上委員) 「9教科の教員」と書いてあるのはありがたいが、もしかしたら9教科ではなくなりそうな動きもある。今、技術・家庭科は1教科であるが、家庭科と情報・技術科という教科に分かれる可能性があるため、9教科ではなくて、表現の仕方が変わるかもしれないことを承知しておいたほうが良いと思う。9教科から変わったらどのように表現するかは、全教科とするのかなどを考えておいた方が良いと思う。

(川崎会長) 表現の仕方のため、事務局で調整いただきたい。意図としては全教科ということだと思う。

(日下部委員) 10ページの通学距離・時間について、「通学距離は概ね2km以内が望ましい」とあるが、国の基準よりも短い距離になっているため、なぜ2kmに設定したかの理由を書いた方が良いと思う。ここに書いてある理由では、なぜ2kmになったのかがわかりにくい。

(事務局) 本検討委員会の前になるが、令和6年度に（小学校5年生と中学校2年生及びその保護者に）アンケートを実施させていただき、その中で、これ以上は遠いと思う通学距離について質問したところ、2kmとの回答が一番多かったため、それを反映させた。

(齋藤委員) 1ページの「はじめに」の所で、形式段落の3つ目、「昭和40年代から50年代にかけて…」の下に、津久井地域のことも触れていただけると良いかなという気がする。入れようと思ったけれども入れずにということかもしれないが、考えをお聞かせいただきたい。

(事務局) 津久井地域について触れるというのは、学校規模の課題であるとか、地域差があるといった内容のことか。

(齋藤委員) (津久井地域は) 過小規模であるとか、統廃合をしたりとかということがあるので、たくさんは書けないと思うが、ボリューム的には入ると思うので、3段落目の「また、」を消して、次の段落で「また、津久井地域では」と少し触れていただけると良いと思った。

(佐藤(香)委員) 11ページの【通学距離・時間に対する考え方】の一つ目の点にある「幹線道路の横断や信号機のない道を避けるなど…」の所に、踏切についても入れていただけると危ない所があるという認識の一つになると思うので、加えていただけると良いかなと思う。

(川崎会長) 踏切を渡ることはあるのか。

(事務局) (通学に) 踏切は渡っている。立体交差ではないので、どうしても線路を越える学区がある。表現の追加は少し検討させていただく。

(佐藤(香)委員) 踏切を渡る学校が何校くらいあるのか。

(事務局) 東林中学校や上鶴間小・中学校へ通学する際には線路を渡る。淵野辺東小学校もどうしても渡らなくてはいけないところがある。

(倉田委員) 向陽小学校もそうである。

(井上委員) 確かに東林中学校には踏切があるが、踏切を渡らないような学区にするためちゃくちゃになってしまう。

(川崎会長) 開かずの踏切というわけではないのか。

(事務局) (開かずの踏切) ではない。

(川崎会長) 6ページの学校施設の現状で、築50年以上が63%あるとなっており、その右側に「本市の学校施設の目標使用年数は80年」となっているが、50年よりも長いもの、さすがに80年はないと思うが60年はあるという中で、見え方としてまだ30年持つと思われると困る。(表現として) 80年に近づいている施設も結構あるというくらいの方が良いのか。60年が一つの区切りだと思う。

(事務局) 目標使用年数を80年に設定はしているが、80年を経過するとすぐに危険であるとか、壊れてしまうというものではない。良いものは100年、悪いものはそれよりも短かったりということなので、目安という形なのかなと思う。

(川崎会長) この一言が入ることによって、80年使えるように見える。

(事務局) 平均して80年は使えるだろうということである。

(川崎会長) 一応、鉄筋コンクリートの耐用使用年数は60年ではないか。

(事務局) 定期的にメンテナンスをしていけば、80年は使えるということである。

(川崎会長) この部分は見え方がだいぶ変わってくると思う。

(事務局) 60年のものを大規模な改修を入れることによって、80年持たせようとしている。目標80年はそうなのだが、元々60年のものを改修して80年としようとしているので、誤解のないようにしたい。

(川崎会長) 長持ちさせることは大事なことであり、全部いっぺんに替えることは

できないこともわかっている。ここで大事なことは平準化していかないと、後ろにずらすだけでは10年後20年後にまたこの問題に直面することが大きな問題であるため、表現の仕方がこのままではいけない気がする。実際に60年を超えている施設は結構あるのか。

(事務局) 本日データの持ち合わせがない。

(事務局) 60年を目途に大規模改修を行っている。

(川崎会長) データそのものが大事というわけではない。60年が耐用年数なので、それを越えるタイミングで大規模改修は一つの選択肢であるが、今回の望ましい規模と配置を考えるにあたって、集約化や新築を含めて選択肢として加えたというのが答申の重要なポイントだと思うため、このまま80年使うというだけでは厳しいと思う。見せ方の工夫をお願いしたい。

(倉田委員) 17、18ページで、今回、図11の新しい「たたき台」という進め方が出てきたと思うが、17ページ上段の枠の中、「以上を踏まえ、次の2つの方法により取組を進めることが望ましい。」で、これは図10と図11の進め方のことだが、どちらが望ましいかということの判断は場面場面で違うのだろうが、そこはどこかで折り合いをつけるというイメージなのか。

(事務局) どちらの進め方も地域とよく話し合いをしながらという意味ではまったく同じやり方である。今までは図10の進め方で、時間はかかるけれども地域とよく話しをして、やむを得ずではないが、子どもたちのためにはやらなくてはならないということで丁寧に議論をしてきたが、やはりそれだと非常に時間がかかる。実際の進め方は(地域に)入って見ないとわからないが、行政からの案も欲しいという意見をいただくことはよくある。そうなった時に図11の進め方で行くとか、そういった使い方も可能であるし、行政の方で早急に進めなくてはならない地域があるとするれば、最初から図11の進め方で行くといった使い分けもできる。委員の皆さんの意見も伺いたい。行政としては図10の進め方を基本として図11の進め方もできるような形が取れると良いと思っている。

(倉田委員) 今まで図10の進め方で、とても丁寧に地域の声を聞いていただいていたことに加えて、地域性を含めた中で、それより前段階に行政として考えていることをまずは投げかけて地域で揉んでもらう、いずれにしても話し合いを高めていってゴールに向かうというのが図11の進め方ということか。

(事務局) その通りである。

(川崎会長) 図10と図11の順番を入れ替えるという手もある。

(酒井委員) 順番を入れ替えるということもあると思っているが、光が丘地区のことで言うと、行政から説明があつてどのように進めていこうかという時に、図10の進め方であったため、こちらから行政としての青写真はないのかと何度も聞いたくらい、本当に前に進まない。同じような内容の会議を2、3回やると、それだけで1

年の半分を終えてしまうという状況があったので、地域でこうしたいという思いがあれば図10の進め方で行けると思うが、素人の地域の人たちで話し合いをしていく中では、たたき台があることによって、それをベースに考えることができたので、それがあれば光が丘地区ももう少し早くできたのかなと思う。今回は2つの方法を提示していただいているというところでは進めやすいと感じている。

(川崎会長) 順番のデフォルトをどちらにするかだと思うが、その点はいかがか。

(酒井委員) 最初からたたき台を出してしまうと、その通りになってしまう気がする。行政の説明があった上で、意見があるかというところのため、図10の進め方があるけれども、図11の進め方もあるとした方が良い気がする。

(川崎会長) それでは順番はこのままとして、従来通りの進め方をベースにしながら、行政としては、常には大変かもしれないが、青写真を持ちながら地域に入っていく形になろうかと思う。

【追加審議・学校規模が教育環境に与える影響】

(川崎会長) 小規模校のメリットにある、「一人ひとりに役割があり、発言や活躍の機会が多い。」というのは、小規模校だからなのか。小規模校の定義は、学年1から2クラスということであり、クラスの人数ではない。35人で1クラスも小規模校扱いなので、これはミスリードかと思う。小規模校、大規模校のメリット・デメリットというのは、クラス数があることで、どのようなメリット・デメリットがあるかということだと思うので、35人、40人括りのややこしい所ではあるが、規模が大きくなると先生の数を確保できることがメリットではなかったか。先生も色々なタイプの方がいて、特定の人に頼らずともというのがあると思うため、先生同士の切磋琢磨も生まれるかと思う。ここは整理が必要だと思う。

(高橋委員) 小規模校のメリットの、「周囲の環境に影響されやすい児童生徒でも比較的落ち着き、集中して学習しやすい。」も小規模校ではなく、クラスの人数であると思う。支援級は20人くらいの人数で、関係性の勉強もでき、自分のペースで学習ができている。先生のフォローが良いというものもあるが、そこは小規模、大規模ではなくクラスの人数かなと感じている。同じく小規模校のメリットの、「特別教室、プール等の施設や教室を余裕をもって広く使用することができ、設備や備品等も利用しやすい。」というのは、色々な社会の話題であるとか老朽化しているということをお案すると、プール等の使用はむしろ費用対効果が悪いというデメリットの方に入ってくる気がする。イメージとしては、せっかくプールがあるのに持て余している、修繕費がかかる、水道費がかかるなど、むしろこれから先の未来はデメリットの方になっていくのかと考えられる。次に、大規模校のデメリットで、「保護者同士や地域との連携が難しくなりやすい。」はその通りで、多様な意見が出て良いというものもあるが、実感としては意見がまとまらない。常に誰かが文句を言っ

ているなど、全員一致はなかなかないが、そこら辺のニュアンスも書き方の案はないが、汲んでいただけるとありがたい。また、ここは地域柄かなと思うところもあり、大規模校の中でも、ある小学校では色々話を聞いているとPTAや保護者の方々が積極的なイメージがあるが、別の小学校では連携をしたくないのか、登校班の解散などもあるため、小規模校、大規模校というよりは地域柄があるかなと思う。それをどこに反映するかはわからないが意見としてお伝えする。

(川崎会長) クラスと規模は分けて議論をするというところと、指摘のあったようなプールや特別教室も小規模校では稼働率が低く非効率になり、その裏返しで、大規模校は効率的に使えるという言い方もできるが、そもそも学校施設のプールや体育館を地域開放しないことを前提とすると稼働率が低いため、複合化はそういうところに繋がる。稼働率が上がることによって、プールは室内で温水化ができたり、一番大きな所でいうと男女別の更衣室ができたり、あるいは、特別な配慮が必要な人の更衣室が別途作れるなど、良い施設が作れる。今の時代は、教室で着替えさせることはないと思うので、施設の中身も充実していくという意味では、効率化は大きいと思う。現場の方で規模が小さいことによるメリット・デメリットで気づく点があれば教えていただきたい。

(倉田委員) このメリット・デメリットを入れ込む箇所は答申のどこの項目になるのかと、入れる意義を教えていただきたい。

(事務局) 8ページの「(1) 適正規模の考え方」のところになる。ただし、本日提示しているメリット・デメリットの表をそのまま入れる訳ではなく、今回の議論として国の基準よりも厳しめに「望ましい学校規模」ということで設定した根拠のような意味合いとして、小規模校はメリットもたくさんあるが、デメリットの方が大きいということが言われているところなので、その根拠をもう一度整理して、エッセンスとして入れたいと思っている。

(倉田委員) ここにキーワードで出てきている内容は、これまでの会議の中からピックアップしていただいたり、それを整理してメリット・デメリットに振り分けているのか。

(事務局) ここのメリット・デメリットは現行の基本方針にあったものである。先ほど話しがあったとおりアップデートされていない部分があるので、そこを含めてご議論いただきたい。

(川崎会長) (小規模校のデメリットで)「教師からのきめ細かい指導を受けやすい。」というのも、クラスの人数のことだと思う。逆に、1クラス、2クラスであるメリットは何かという内容が必要だと思う。

(酒井委員) そもそも大規模校と小規模校をなくしたいと思っている訳であれば、それぞれのメリットは書かない方がよいと思う。適正規模校のメリットを記載して、それに対して大規模校と小規模校の場合のデメリットを示すだけで、なくしたい学

校規模のメリットを出してもあまり意味がないのではないかと思った。小規模校でも、1クラス10人であれば一人一人に役割があるというのはわかるが、35人ギリギリであれば大して変わらないかとも思うので、適正規模が良いことをアピールしたいのであれば、大規模校と小規模校のメリットはない方がよいのではないかと思う。

(佐藤(慶)委員) ここでは小学校と中学校は分けて考えるのか。中学校は規模が大きい方が教員の関係で成り立つ、成り立たないというそもそも論になってくるのではないか。(小規模校のメリットの)「運動会等の行事の際に席を確保しやすい。」とあるが、今は席を確保してはいけないというのがあるし、プールの稼働率も壊れても修理をしないで民間施設を使うことを選択したりする。

(川崎会長) 現行の基本方針に引っ張られている部分があるので、望ましい学校規模のメリットがあり、小規模校や大規模校になると、このメリットがなくなるという整理の方がよいかと思う。

(倉田委員) 発達段階で、小学校1年生から中学校3年生までの括りは大きくて、下の学年ほど1クラスの人数は少ない方が望ましいと思うし、中学校であれば社会性を含めた中である程度の人数がいらないといけない。そのようなことを加味しながら一表にするのは大変難しいと思う。

(川崎会長) クラスの人数というのはここではなくて教育委員会の考え方になると思う。学校規模を中心に考えると、小規模校と大規模校のメリットは必要ないと思う。

(高橋委員) 小規模校のデメリットとして思ったのが、適正規模では支援級のクラスも普通級のクラスも複数あるため、みんなが集まる場では、ああいう子たちもいるよねという話しになったりと、適正規模は色々なクラスがあることがメリットだと思う。小規模校だと、支援級1クラスに対して普通級1クラスなのか、あるいは支援級が作れないのかという感じになると、一緒になるのも良いが、色々な子がいるという機会が小規模校だと感じることでできにくのではないかと思った。色々なクラス編成ができる、色々な人たちがいることが実感できる、それが社会だというのを感じることができるのが適正規模なのかなと思うので、そこも適正規模校のメリット、小規模校のデメリットと考えられると思った。

(佐藤(慶)委員) 並木小が現在抱えている問題としては、児童数に反比例して支援級の数が多く、今後、弥栄小に行くと支援級の教室の場所が限られていて、大きなクラスになるというのが不安だという保護者が多い。大規模校だからクラスの空間がたくさんあるとは必ずしも言えないと思った。

(川崎会長) 施設は変えられないが、望ましい水準であれば教室も一定程度の余裕は出る。大規模校になると余裕がなくなることがデメリットになる。小規模校だと偏りが出る、色々な人と出会えないというデメリットがある。そのため、望ましい学校規模に落ち着かせるスタイルが良いと思う。それぞれの項目で望ましい水準にす

ることによって生まれるメリットを書く方法にしないと難しくなる気がする。プールでも、民間の施設を借りる時に、大規模校だとクラスごとでしかいけない、小規模校だと複数の学年と一緒にやらなくてはいけないなど、それぞれオペレーション上の課題が出てくると思うので、一つのテーマで、プールならプール、教室なら教室で、望ましい水準の方が良いという形でまとめた方が良いと思う。

(佐藤(香)委員) デメリットだけを残すなら、子どもが通っている学校は大規模校で900人程児童がいるが、そこを想定して考えた場合、デメリットの児童生徒に対する影響の「同学年でもお互いの顔や名前を知らない…」というのは、確かに1組と4組で知らない子がいるというのはあるが、「…児童生徒間の人間関係が希薄化する可能性がある。」というのはまた別問題かと思っているので、ここはデメリットには入らないのではないか。ずっと同じクラスの子もいたり、地域柄同じ子もいたり、むしろ人間関係が濃くなるということもあると思う。また、保護者や地域に対する影響の所で、保護者自体が千人以上いるが、むしろそれぞれが地域と関わりが増えたりすることで、連携が生まれやすくなる場所があるため、「…連携が難しくなりやすい。」という所は、大規模校とイコールにはしなくて良いと感じた。

(高橋委員) 自分の地域は、地域と繋がっている保護者が少なく、それぞれ単独でという感じのため、そこは地域柄連携が難しいと感じている。600人を超えている適正規模ではあると思うが、そういう難しさは感じている。

(事務局) 先程質問があった築60年以上経っている学校数は16校ある。ただ、最も古い校舎の築年数を表現しているため、全てがという訳ではない。

(倉田委員) 今回提示していただいたメリット・デメリットを、今までの意見を踏まえて、次回が最終回だと思うが、そこでもう1度提示していただくのか。

(事務局) このまま提示するというよりは、今いただいた意見を基に答申にどのように盛り込むかという形にしたいと思っている。

(倉田委員) デメリットと言い切れないことが多く、反対にメリットとも言切れないことが両方混ざっているので、せっかくここまで考えて資料として出すならば、出してマイナスになってしまうのはもったいない。

(川崎会長) 適正規模の考え方の根拠を厚めにするということかと思うので、文案を作成して、次回提示していただきたい。なお、先ほどの最も古い校舎が築60年以上というのはわかるが、メッセージとしては、要は80年までプラス20年は大丈夫という話しではなく、改修という選択肢も排除はしないが、望ましい、新しい学びを提供するのにそれで良いのかという問いでもあるため、60年なら60年で、実態として市民に理解をいただいた方が良い。

(川崎会長) まとめをしていくと、細かい点についても話しをいただいたが、大きな所では、目標使用年数が80年と表現されていること、通学距離を概ね2kmとする根拠であるアンケートのこと、声の大きい人をどう表現するか、また、冒頭の導入

部分に津久井地域のことを入れるなどを指摘いただいたかと思うため、事務局の方で修正いただきたい。追加議論については、望ましい学校規模のメリットに対して、それを越えるまたは下回ると、メリットが失われていく、あるいはデメリットが顕在化していくということで整理をしていただく。それが「望ましい学校規模の範囲」の根拠になると思う。

(4) その他

なし

3 閉会

相模原市立小中学校等の適正規模・適正委員会 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	川崎 一泰	中央大学 総合政策学部	会 長	出席
2	齋藤 嘉一	帝京大学 教育学部 初等教育学科		出席
3	割柏 秀規	相模原市自治会連合会		出席
4	木下 泰雄	相模原市公民館連絡協議会		出席
5	日下部 全彦	相模原市幼稚園・認定こども園協会		出席
6	高橋 昌剛	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
7	久保 武史	相模原市立小中学校PTA連絡協議会	副会長	欠席
8	佐藤 香	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
9	酒井 美穂	公募委員		出席
10	佐藤 慶一	公募委員		出席
11	倉田 秀文	相模原市立小学校校長会		出席
12	井上 武仁	相模原市立中学校校長会		出席